

## NO. 1

今回の授業で中国をはじめとした様々な国を旅し、伊藤忠商事に勤めている木村先生の話聞いて思ったことは、日本人と中国人は殆ど正反対な性格や国民性だが、寧ろそれがお互いを高めあっていることに納得したことである。中国人は個人主義、ネット活用、面子重視などの、日本とはほぼ正反対の性質だが、彼らのことを理解し、誠心誠意に接することが大事であることを学んだ。また、旅は人を成長させるものだということも学んだ。木村先生は、友人と二人でヨーロッパを鉄道で一年間旅行したと言っていたが、私もそういう旅に強いあこがれを持った。時々見る、世界の車窓からという番組で海外の鉄道が特集されているが、そこから見える海外の雄大な景色を見て、木村先生はきつとこういう景色を見てきたのだろうと思った。最後にチベットの文化を見たとき、彼らの独特な文化は面白いと思った。特にそう思ったのは五体投地である。一つの願いのために十万回地面に伏せるという気の遠くなることをすることは私には到底できないと思った。

今はまだコロナが蔓延しており海外旅行は難しいが収束した暁にはいろんな国に行ってみたいと思う。

## NO. 2

人を成長させる3つのことで(1)本(2)旅(3)友人と仰っていて(2)の旅は大きな旅行は現在のコロナウイルスの状況で簡単に実行することができないのが残念だが、近場で行ったことのない場所や普段は車で来るところを歩いてみるなどの工夫をすることで何か新しい発見ができるのではないかと思った。私自身最近になり、一人で行動を試みる機会を増やしているのだがそうすると今までは目にしていたはずの景色が違うように見えることもあり、面白いと感じていたので続けようと思った。また、(1)の本ではやはりスマホやパソコンを見る時間が長く、授業以外でもスマホが常に手元にある状態で生活をしているため、その時間に本を読むことを意識して見ようと思った。本を読むと日常生活ではほとんど使わない表現もあり、本の世界に入ること自分ではない誰かの中にはいることができるような感覚を持つことがあるので視野を広げることに繋がると思った。

現在就活をしている中で自分が希望する職種に偏ってしまいがちなのでそれ以外の様々な分野も見ていることも大事だと思った。

## NO. 3

本日の木村さんの講演はとても面白く自分でも共感できる部分がありました。まず初めに何でもやろうというところで木村さんの行動力の速さ、そして好きなものを見つける能力

や興味を具体的に述べる事が出来るのは本当に素晴らしいことだと私は思いました。そして次の商社で学んだことの所ではやはり社会人というのは改めて難しく大変なものだと思いましたがせっかく伊藤忠に入ることが出来ても希望する部署に配属されず全く縁のない部署へ配属され海外とは程遠い仕事をしていた。そして3つ目の中国人との付き合い方の所では共感できる部分は多くありました。私自身も父の仕事の関係で中国に7年在住していたので木村さんがおっしゃっていたことをよく理解すること出来ました日本人の中には中国人のことを毛嫌いする人達があります彼らの性格や任芸性を理解して付き合うことが出来たらとても良い関係を築けると思いました。今回の講義を通してもっと木村さんと忠吾のことについてお話をすることが出来たらいいなと思いました。

#### NO. 4

木村さんの話を聞いて最も心に残ったことは3つある。1つ目は仕事に選り好みをしないということ。私は今就活生で企業を調べる時にはまず入ってみたら何をしたいかを考える。でも、もしやりたい部署に配属されなかったらつまらないと感じてしまうのではないかと心配していたが、今回木村さんの「選り好みせず、一生懸命進んでいけば必ずやりたいことができるチャンスが来る」という話を聞いて、安心と同時に色んなことに挑戦したいと感じた。2つ目は国籍に関わらず、人付き合いにおいて相手を理解することが重要であるということ。木村さんは商社で色んな人と関係を持つ機会が他の人よりも多く、また関係性の構築が重要となると思うが、その中で重視しているのが相手がどんな人でどんな考えなのかを理解すること。例え相手と国籍が異なっても相手を理解することを基盤に言動を考えることが大切であると勉強になった。3つ目は国外に出てみるということ。世界のリーダーは海外に出ることによりインセンティブを受けて成功しているという話を聞いて、海外に行くことで感覚や文化、習慣などの違いに身を置くことで得られるものにとっても興味を持った。コロナ禍で留学について諦めていたが、木村さんの話を聞いて、卒業前に旅行としてでも自分で海外に行き、視野を広げてから社会人になりたいと思った。

#### NO. 5

仕事をえり好みしないという言葉があったが、むしろ自分の意見としては仕事をえり好みしたいという意識の方が強い。

一度仕事を選ぶのに失敗しているため、むしろ自分の仕事の希望はどんどん企業を選ぶ条件に付けていくべきだと思う。その過程で妥協できるような企業が見つければ、とりあえず入社すればいいと思うし、もし自分の考えと違う会社であれば退社をすればいいと思う。一番やってはいけないのは自分のやりたい仕事が違うからと言って、全く行動しなくなること。講義でも言っていたように、行きたいという意思を強く持っていれば、じきにチャンス

が来る可能性も十分あるし、それを逃さないという気持ちも大事だ。

自分の嫌な仕事に就いてしまっても、やりたいことに向かっていくメンタル、思考を持ってさえいれば、行動することができる。

すでに就職活動は始まっているが、自分が後悔のないように一生懸命仕事を探して、仕事をしながら自分のやりたいことも同時並行に続けていければと思う。

## NO. 6

今回の講演の中で印象に残っていることは中国との関わりである。貿易相手として重要であることは理解していたが、単にそれだけではなくとも企業や事業を発展させていく仲間という立場に立つことも必要だと講演を聞いて感じた。合併事業など簡単ではないだろうが、短所を補い合い成長できるという考えには私も賛成する。日本がこれから進化していくには、中国や韓国のような攻めの姿勢が不可欠だと考える。それに対し、中国は計画性や協調性などが日本に比べて劣る。ある程度のレベルまで発展し独自のあり方を確立した国の中で今から短所を改善していくのは非常に難しいと私は考える。そのためこの国際化した時代を利用し他国と手を組むことが自国を変える一番の方法なのではないだろうか。また商社のもつ機能は多岐にわたることを知った。しかし相手の企業や国についての知識を持つこと、ネットワーク、つながりが必要であることは8つすべてに共通しているように思い、それらの重要性を感じた。

## NO. 7

日本の貿易相手国として中国がアメリカを上回るようになったことから分かるように、中国の勢いが様々な面で強まっていることを感じる機会が近年では増加しているように思われず。その中国とは今後、どの業界に属していても接点を持つ機会があると考えられるため、その国民性について知ることが出来たことはとても勉強になりました。講義の中で日本人と中国人の対称的な部分がいくつか挙がりましたが、文化が大きく異なること、国交の印象からあまり相性が良い方ではないと勝手に考えていました。そのため、互いの短所を補い長所を伸ばし合うことで上手くいくという発想は新鮮に思われ、改めて様々な視点で物事を捉えることが特に国際社会では必要不可欠であることを痛感しました。

また商社の特徴に挙げられた、世界中に接点を持ち、退職後も続く関係を持つことができるという点はとても魅力的に感じ、またどこでチャンスが掴めるかは分からないため、仕事を選び好みしないということも今後社会人になる上で必要な事だと感じました。

## NO. 8

今回の講演は中国の話や商社の話など興味深い話が多く、とても刺激になった。講演を通じて考えたことは大きく分けて二つある。一つ目が、大学生である今の自分が何をすべきか、というものである。木村さんが学生時代にヨーロッパを電車で見た話はとても魅力的で、その話しぶりからも若いうちに海外へ飛び込むことがいかに刺激になるかを理解することができた。また、人を成長させる三つのこととして講演内で挙げられた本、旅、友人はどれも当たり前のものであるものの、これまでの自分自身を振り返ってみるとどれも大きな成長につながっているように感じ、今後も意欲的に取り入れようと考えた。

二つ目が、中国人との向き合い方である。これまで中国の人々に対しては「積極的」「関係や面子を重視する」といった漠然としたイメージを持っていたが、講演では日本人と中国人の違いが客観的に紹介され、それぞれの長所と短所を理解することができた。また、両者の特性を理解することで、日本人と中国人が相関関係を築きながらビジネスをするビジョンが浮かんだ。

## NO. 9

今回の講演では自身の経歴や思い出、伊藤忠商事のことについてお話をいただいたが、私が特に印象に残ったのは前半の方に話していた大学生の今のうちにやっておいた方がいいことや今大切にすべき3つのことなどがとても印象に残った。以前に本で同じようなことを読んだことがあるが、直接(画面を通してではあるが)歳が上の方に言われるとその言葉を大事にしていこうと思った。

## NO. 10

私は、今回の講義を聞いて、日本の外に出て、日本では見られないものや感じられないことを自分の目や肌で感じたいと思った。今の状況では、まだ自由に海外に出るということは困難であるが、この状況が良くなったら、海外のいろんな国に行き、自分の好きなことを見に行ったり、現地ではできないような経験をしたかった。

また、日本人と中国人の性格の違いでは、日本はメディアが報道することを信じやすいという特徴があるのに対して、中国人は、メディアでは共産党のいい様に報道されるので、ロコミが重視されるという話は衝撃だった。

そして、国別血液型シェアのグラフを初めて見たが、日本人のAB型のシェア率は10パーセントにも満たないのに、自分の周りにはAB型の友達が多く、不思議だと思った。

商社の仕事については、1年生のころから学んできたが、メリットとして、50代以降の

選択肢や転職先が多く存在しているということは初めて知った。

#### NO. 11

「人を成長させる3つの事」として、「本」「旅」「友人」が取り上げられていました。私はこのうちの「旅」にとっても共感しました。私も最近ふと思い立ってプチ一人旅に出かけました。山梨と静岡に行って、ひたすら普通列車を乗り継ぎながら神社や自然スポットを回りました。一泊二日の短い旅でしたが、家に帰ったときには達成感がありました。

講義中にその時のことを思い出して、一人旅が成長につながる理由を自分なりに考えてみました。一人旅で自分が得るものはグループで大きなことをやり遂げた時とは内容も量も違います。グループでは役割分担が前提ですが、一人ではそれがないので自分の行動すべてが結果に繋がり、その結果をまるまる経験値として受け取れることが成長に直結しているのだと思いました。

私は周りに流されやすい性格なので、常に自分の意思決定が全体の結果につながることに抵抗があります。一人だとそれを気にする必要がないので単独行動が元々好きでした。そんな私にとって一人旅は絶好の成長の機会なのかもしれません。講義を終えたときには、続けてみようという気持ちが大きくなっていました。次はより充実した旅にしたいです。

#### NO. 12

今回の授業では生き方みたいなものや中国と日本を比較して出てきた内容などをきけた。これらはとても面白いものであり、生き方の点において、なんでもやろうという気持ちがとても大事であると思われた。そして人を成長させることの中に旅があり、これはぜひ学生のうちにたくさんしたいと思った。そして選り好みはしなくていいということ、決まったところでやって、その時にいいものを手に入れられる。この考えには自分の中で新しい考えでありいいことを知った。中国との話では、中国が現実的、経済合理的という考えがあること知った。僕の友達にも中国人がいてまさにその通りだったので聞いていて納得していた。

#### NO. 13

本日の講義を受けて、好きなものを見つける、成長するために何をするかなど人生においてためになるものばかりでした。自由なことができる大学生のいま、やるべきことがたくさんあるのだなと感じました。今、私は、人を成長させる3つのことにあるように、本を読もうと考えています。スマホなどではなく、紙媒体の本などの活字を読むことはとても大事だと思いました。一人旅をする勇気はありませんが、自然にふれあうことはとても興味がありま

す。友人は私の中で一番大事だと考えています。また、講義の中でおっしゃっていた、社会人として働き出したあとに趣味を見つけるということ、何事も興味を持った事は一度やってみることがとてもためになりました。中国人の性格や中国の文化、チベットの文化など、新しいことを知ることができました。

#### NO. 14

私は、今回の木村先生の講義を聞いて、「人を成長させる3つのこと」が特に心に残った。本と友達が大切だということは私の今までの経験の中で実感しているが、「旅」が大切だということ、さらに「宿は決めない」「一人旅をする」という二点にはとても驚いた。しかし、一人旅をして様々な環境に触れることが自分の世界を広げることにつながるという話を聞いてとても納得することができた。

また、「中国人との付き合い方」というお話もとても面白いと思った。私は、今まで国による性格の違いについて深く考えたことはなかったが、それを知っていれば仕事の面だけでなく、様々な面で多様な国籍の人とうまく付き合っていけるのではないかと思う。

今回の講義で木村先生の話聞いて、挑戦するということがいかに大切かということを確認することができた。これからは今自分が知っていること、見たことがあるものが世界の全てだとは思わずに、どんどん新しいことに挑戦していこうと思う。

#### NO. 15

今回の講義で、人を成長させるものや3つのGなど様々な経験談を知ることができてとても興味深かった。入社当時に学んだこととして、大阪弁や語学だけではなくゴルフや囲碁も挙げていて、コミュニケーション能力や交友関係も重要であることがわかった。その中でも特に印象に残っていることは日本人と中国人の性格の違いから見る働き方の考えである。それぞれの違いを挙げながらも、だからこそ補い合うことでうまくいくといった働き方の見方はしたことがなかったので聞いていて面白かった。特に商社は世界中の人と関わるので、相手を理解し一緒に仕事をしていくことが成功につながるのだと考えた。また五体投地や宝石などチベットについて初めて知ることが多く、木村先生からの世界は広い・何でもやってみようというお話が身をもって感じた。コロナの影響で思うようにいなくなり諦めたりすることが多かったが、もっと世界のことについて勉強したり視野を広げなければいけないと考えた。

#### NO. 16

まず、はじめに「なんでも見てやろう」という考え方とそこから1年間ヨーロッパを見て回

った行動力は、今の自分に足りていない部分だと痛感し、見習わなければいけないと感じました。コロナ禍で留学などによりやくいけるようになってきたこともあり、これからは自分の行動力が重要であり、後悔のない学生生活を送りたいと思いました。

また、商社という言葉は知っていたが、実際にどんなメリットがあり、何が働く上で大切なのかという知識はなかったので、知る機会ができて良かったです。実際に働いていなければ分からない3つのGの話は非常に興味深かったです。

最後に、日本人と中国人についてです。私は今まで、中国人と日本人は国民性に大きく差があり、一緒に働くと少しギャップが生まれてしまうのではないかという懸念を持っていましたが、互いが相手のことを思いやり、良い意味で気を遣うことで、相乗効果が生まれ、関係性や仕事をするうえで良い方向に傾くというのはとても印象的な話でした。

## NO. 17

まずは木村さん、本日は講演していただき誠にありがとうございました。貴重なお話もあり、これから就職活動や社会に出て行く身としてはどれも有意義なものばかりでした。

正直、今回の講演を聞くまでは以前からの授業の流れ等で、伊藤商事という会社に対してお堅い会社というイメージがどうしても拭えませんでした。普段からの授業で木村さんにコメントしていただくときも、木村さんの豊富な知識や経験からお話されていることがとても多かったためどれだけ多くのことを吸収しなければならないのだろう?かなり厳しい会社なのだろうか?と感じていたのが本音です。ただ、今回木村さんについて詳しくお話をさせていただいたことで、個人的には社会に対する恐怖感や不安が少し軽くなったような感覚です。自分はまだアルバイトでしか、直接会社というものに関わったことがないため、そもそも会社に居る、会社中のひとりであるという感覚があまりありません。今回、木村さんのお話を聞いて社会に出ること、会社の一員になることが自分の人生の最大の分かれ道を決めることになるということを感じました。

## NO. 18

### I. 何でも見てやろう

小田実さんの『何でも見てやろう』という本を読んで、ヨーロッパ留学を決めたという話の中で、「言葉が違って何とかなる」という言葉が非常に印象的だった。実際に高校時代に1ヶ月ロシア留学した経験から、この言葉に対して共感を覚えたからである。ロシア語を上達させるためという目的が第一ではあったものの、いざロシアでホームステイ生活を始めてみると、語学能力の向上よりも、現地の人々との交流を通して、生活を楽しまたいという気持ちの方が大きかったことをよく憶えている。ロシア語での表現や説明の仕方が分からなくても、伝えたいという気持ちがあれば、相手は何となく理解してくれると分かったからである。

また、留学によって、日本とは違う刺激を受けること・様々な物事に対しての見聞を広めることの重要性を、木村さんの講演会の中で再認識することができたため、非常に良い

機会であったと感じた。海外で自分の好きなことを見つけることによって、それがその後の就職に繋がっていく可能性があることから、今興味や関心があることをある程度リストアップして、それを今後留学出来るようになった時に活かせるのではないかと考えられる。さらに、人を成長させる3つのことから、日ごろから当たり前のように使用しているスマートフォンの存在を改めて考え直す必要があると感じた。たとえ現地で道が分からなくても、言葉が伝わらなくても、スマートフォン一つで全て解決することが可能であるからである。スマートフォンへの頼りすぎは、海外経験における現地との交流のチャンスを自分から潰してしまっているのではないか、だとしたら、非常に勿体ないことを無意識のうちに行っているのではないかと考えたのである。

## II. 商社で学んだこと

木村氏の経歴を聞いていく中で、「仕事は選り好みできない」という言葉から、初めからしたい仕事ができている人は一握りなのだと改めて考えた。今まで様々な講義で様々な職種の人のお話を聞く機会があったが、どの人も初めから海外支社で働いているわけではなかった。最初は全く関係ないような部署で働き始め、次第に仕事の幅が広がっていくとともに、人脈も広がり、海外で働く機会ができたと言語の人が大半だったからである。私自身、海外で働くことが漠然とした目標ではあるものの、そのチャンスを掴むためには、日ごろから少し先を見据えつつ目の前の仕事をこなすことが大切なのだと、木村氏の経歴の話から考えた。何がチャンスに繋がっているのかは誰にも分からないからである。

## III. 中国人との付き合い方

日本人と中国人の性格の違いから、双方の文化の違いが顕著に現れているのではないかと感じた。特に、日本人は「消極的・メディア信奉・チームワークを重視する」などの特徴があり、反対に中国人は「積極的・ロコミ重視・面子重視」などが特徴として挙げられており、客観的に考えて真反対の性格をしていると思われる日本人と中国人には、通ずる部分がなく、合わないのではないかと一瞬考えた。しかし、性格が異なるからこそ、お互いの異文化からくる性格の違いを互いに受け入れ、尊重していけば、総合的な成果が上がるのではないかという木村氏の考え方に感銘を受けたのである。実際に、伊藤忠商事はお互いの信頼関係があるからこそ共にビジネスを行うことができているのだ。これは、一種の「異文化理解」であると考えられる。

## IV 普段知らない中国を知る

また、チベットについて今回の講演会を通して知ることができ、大変良い機会になったと感じた。五体投地が日常的に行われていることに対し、このような宗教的文化があるのだと新たな発見があったからである。私たち日本人の普段の生活では関わる機会がほとんどないチベット文化を、実際にチベットに訪れたことのある木村氏の実体験談を通して聴くことができ、知ることができて良かったと感じたのである。

## NO. 19

私自身これまで、中国人と働くのは仕事に対しての考えが大きく異なり、良い仕事をすることは不可能なのではないかと考えていた。しかし、今回の講義を通して海外の方と共に働く上で、最も重要なことはお互いを知ること、受け入れることだと感じた。生まれ育った国が違えば、その国特有の性格があり働き方や考え方も異なる。だからこそ、互いを受け入れ、足りない部分を互いに補い合うことが、より成果を上げることに繋がるのだと今回の講義を通して改めて実感することができた。

また、木村さんの海外や職場での体験談を聞いて自分自身を成長させるには目的を見つけ



何事にもチャレンジする精神が必要であると感じた。ただ好きなことをがむしゃらにやれば良いというわけではないが、少しでも興味のあることがあれば躊躇せずチャレンジしていくことで必ず視野が広がりさらに新たなことにチャレンジしようという好循環を生み出すことができるのではないかと考える。

## NO. 20

本日木村先生のお話を聞いた。商社の歴史からそこで働くことのメリットデメリットを学んだ。また、木村先生は海外旅行をたくさんしたとおっしゃっていた。今日ではなかなか海外旅行はすることが出来ないが、もしコロナ禍でなかったらたくさん旅行にお金と時間を費やしていただろう。先生の体験にあるように、海外旅行で得られる経験は多く、その経験が自分の価値観や好みを形成していくものだと知った。講演ではほかにも中国人の特徴や付き合い方も学ぶことが出来た。前期の中国の社会と文化という授業でも習ったように、面子を重んじる傾向にある、ということも改めて学んだ。また日本人と比べて現実主義であり、合理的な考えをすることや、自己主張が強いことが、中国人が活躍する理由のひとつであると考えた。一方で日本人は消極的な面や逆にグループでの協調が得意な点も挙げられていた。このような違いは、時や場所によって生かされるかどうかが変化すると考えた。したがって、冒頭でも述べた「海外旅行」をすることで、つまり海外の人とも交流し、良いところをいい意味で奪うことで、自身の成長につながると考えた。

## NO. 21

私が先生の授業を聞いて、共感出来たことがある。それは、旅は人を成長させる1つだということだ。私も旅で自分が成長したと思う瞬間はいくつかあった。それは、家に籠ってインターネットで見る情報と、実際に見に行くのとは全く異なる。そこには、先生も言っていたように、予期せぬ発見があると考えている。

例えば私の話だと、9月に東京から北海道の宗谷岬まで普通列車で行く旅行をした。福島第一原発がある福島県双葉町に行った時10年前の報道では、不毛の地になると言われていたが、実際に見てみれば、そのような光景は無かった。確かに、津波の爪痕はのこっていたが、花が咲き、川は透き通っており、来年の夏に住民が戻ってくるため、インフラ整備が進んでいた。この旅行だけに限らず、新しい場所での予期せぬ体験は、新たな見聞を得ること、価値観の変化することにつながる。したがって、私はこれからも旅行を続けていき、また、本を読み、友人を増やして、自分を成長させていきたい。

## NO. 22

今回の講義では、商社におけるグローバルな世界観を知り、今までには感じなかった商社の魅力に気づきました。その中でも、中国ビジネスのなかで働くことで日本人と中国人のそれぞれの良さを生かした戦略ができるのではないかと思った。中国人の積極性やトーク力、営業の力を学ぶことも日本人にとって大事な経験になる可能性も大きくあると思う。

また、私は今回の講義の中で「外に出て自分のやりたいことや好きなことに挑戦することがいかに大切で、その後どのように生かされていくのか」ということについて考えさせられた。私は高校時代から中国に興味があり、中国語の授業を履修するなど、好きなことを続けているが、留学や旅行といった思い切った行動には未だ移せていない。新型コロナウイルス感染症の影響で、制限された「外への道」だが、木村さんの講義で今の自分がしたいことをやるべきだと考えた。

## NO. 23

私は木村先生の講演を拝聴して、中国人との付き合い方について興味をもった。その中でも重要な3点をまとめたいと思う。

1つ目は、先ず中国人の特徴を理解することである。中国語に親しむことも重要だ。中国人は現実を最も重んじ、現実の事態に即して事进行处理しようとする現実主義者であることが多い。また個人でモノを販売するように、個人主義でもある。

2つ目は、中国人の基本は「誠心誠意」、「気配り」、「気働き」である。困っているときや苦難の中で助けてくれる人が本当の友人であるという意味を持つ「患難見知交」という言葉もあるくらいである。

3つ目は、中国社会はトップダウンで人脈を大事にすることである。トップダウン社会というのは、日本語でいえば「上意下達」という意味で、企業の上層部が意思決定をくだし、それに基づいて下部組織が動くという意思決定スタイルである。また、家族や親族、同郷、学友、社友関係を大切にす。例えば、一緒に食事をする、お酒に付き合うといったような例が挙げられる。

このように、中国人・日本人のお互いの性格の差異を知り、長所と短所を補填しながらお付き合いをしていくことが大切であると私は感じた。

## NO. 24

今日の授業を受けて、まず1番最初に木村先生の話で印象に残ったのが世界は広いから、何でも見てみなさい、という言葉だった。わたしは生まれてから一度も海外を訪れたことがなく、日本という小さな島国の文化圏の中でしか生活したことがない。海外で見聞を広げることにより、自分がなにが好きで何をして生きていきたいのか、今の時点で明確にわからないことを理解するきっかけになるのではないか、と思った。仕事というと固いことしか思いつかないが、自分が好きなことを見つけてそれに関連する仕事を見つけたり、それに向かっ

て成長したいと思う。

また、日本人と中国人の性格の違いによる関わり方の違いについても関心を抱いた。グループ主義でチームワークを大切にする日本人と個人主義で自己主張が強い中国人とでは、仕事だけでなく私生活でも様々な違いがあるのだろうと、興味深く思った。そしてお互いの長所短所を補い合うことで成果が出るため、日本人と中国人がタッグを組むとうまくいくというのを聞き、中国の方と関わってみたいと感じた。

## NO. 25

まず人を成長させる3つのこと、本と旅と友人のなかで旅の項目に関心を抱いた。

現代人の若年層である我々にとってスマホに頼らないというのは難しいことかもしれないが、宿を決めずに一人旅で海外に行くというのも現代人の若年層である我々にとっては難しく少し恐れてしまうことだと思った。

入社当時に先輩から指導された商社における肝心な3つのGを見る限り語学はビジネスにおいて当然のことであると思ったが他の二つは趣味や接待などに関連してくるのかなと聞いて面白く感じた。

途中に述べられていた日本人と中国人の性格の違いにおいて日本人とアメリカ人などの比較でもよく見られるような特徴がちらほらと見えて日本と外国で大きく違うのはもちろん、日本対その他の外国という人間性の分け方(?)としてくみ取れるなどと思った。

他にチベットの話で出てきた冬虫夏草はインパクトが大きかった。

さらに言うと広大な山々と綺麗な建物の組み合わせが美しいと思ったし、チベット犬の写真は最初にパッと見たとき本当にライオンかと思った。

## NO. 26

今回の授業を受けて何だことは、人との関わりや、経験がどれほど大事なのかを教えてもらえる授業だった。海外では、コミュニケーションを基本を主に、日本では思いつかないような考えなどが沢山ある。海外に行き、様々な経験をすることで自分の経験の幅が広がることがよくわかった。人との付き合いという場面ではこれから社会に出ていく私にとって増えていく場面だと思っています。その中で会社に勤めた際には上司や、先輩と、食事の場だったり振る舞い方などで人生を左右することもあると思います。この授業を受けて自分のこれからの人との関わりや経験についていい勉強が出たと思います。

## NO. 27

私は今回の講義を通じ、大学在学中に海外で見分を深めるべきであることや中国人と文化

的な差異を把握しながら共に働くこと、チベット地域等の自分と異なる文化圏へ訪問して幅広い価値観を知ることの大切さを学んだ。まず、大学生時代に木村先生が行き先を決めずにヨーロッパ諸国を一人旅した経験から、私は友人同士ではなくたとえ不安であっても一人で旅をすることで自分の好きなものを見つけて充実した旅を送ることが出来るのだと理解した。また、積極的で個人主義ながらも人脈や仲間を大切にする日本人とは異なる中国人の特性を深く理解することが、今後グローバル社会で働く私たちにとって重要であると感じた。そして、天空の宗教都市であるチベット地域で中国の監視社会に苦しめられながらも独特な人生観や文化で懸命に生きている人々のことを今回初めて知ったため、自分も機会があれば訪れてみたいと思った。

## NO. 28

今回の講演は実際に社会に出てたくさんの経験をされてきた方のお話で自分に当てはめて考えることができた。冒頭にあった自分を成長させる三つのこととして本、旅、友人や家族であった。そこで私は旅行が好きで自分で運転しいろいろなところへ旅をし、コロナ前は海外も訪れていたことを思い出した。それこそ家族とも様々なところへ行きそれらの経験が今に繋がっている部分もたくさんある。しかし、本に関して言うと、普段なかなか読むことがないためまずは自分の興味のある分野の本から挑戦したいと思った。今の時代良くも悪くもスマホ一つで解決してしまうことも多くあるので本というコンテンツから学びを得たい。また友人のことを言うとなかなか学校に行けない日々が続いていたため通常と比べたら友人や留学生と関わる機会が少ないが、制限のある中でいろいろな人と関わっていきたいと思った。

中国人と日本人は性格的に真逆であるが、だからこそお互いの長所を伸ばしあうことができ、意外と相性がいいというのも印象的だった。またチベットをピンポイントに学んだことが今まであまりなかったため建造物はもちろん衣装なども興味深かった。

## NO. 29

以前、立命館アジア太平洋大学の学長である出口治明先生の講演で、「人生は、人、本、旅が大事である」ということを聞いたときから、私もその3つを大事にして生きていこうと決めたのですが、木村さんも同じように本、旅、友人の大切さを語られていて、改めてこの3つが人生を豊かにする大きな鍵であるということへの確信をもつことが出来たような気がします。早くコロナウイルスが収束して自由に旅行ができるようになったら、友達とはもちろん、一人で世界を旅行したいです。それまでは、日本で本を読んでたくさん教養を深める時間を設けたいと思いました。

また、商社では3つのGが肝心というお話では、語学、ゴルフ、囲碁の3つのGを教え

ていただきましたが、つい先日読んだ「私の履歴書」でもサハ CEO が囲碁を習い、ビジネスに役立っていたことを学んだので、本当に囲碁が重要であるということを実感できてとても面白いと感じました。その他にもビジネスをする上で、その国の特徴や人の性格をしっかり理解して、付き合っていくことの重要性など、実際に中国と関わりながら活躍されてきた木村さんだからこそわかるお話を聞くことが出来てとても貴重な時間でした。また、国別の血液型シェアなども初めて見る観点からの比較だったのでとても興味深かったです。

## NO. 30

木村先生のお話を聞いて印象に残っていることが2つある。1つは中国人の考え、性格の違いだ。私にとっての中国人は我が道を進むという感じで、控えめな日本人とは合わないと考えていた。しかし中国人は誠心誠意、気配りなど困っている時に助けるということをお聞きした時は日本人よりも、人との繋がりが強いのではと感じた。また家族、親族、同郷、学友、社会関係は財産という考え方に感銘を受けた。日本ではそう思っている言葉に出しづらい。

2つ目は人を成長させる3つのことだ。人を成長させる3つの中で宿を決めずに一人旅があった。私は絶対に無理だなと感じた。確かに成長できるポイントかもしれないが絶対に無理だと感じた。一人旅だからこそ宿は事前に決めて予約を取りたい。また予約を取った宿を中心に行動範囲を決めていきたい。それに私は海外に行くとしたら、スマホに頼ってしまう。1人では行動できないタイプの間人だと改めて感じる授業であった。

## NO. 31

ご自身の経験をユーモアを交え表情豊かに語ってくださり大変面白かったです。若い頃にヨーロッパに友人と1年間も旅行するなどハングリーになんでもやってみようという精神はわたしにはないものなので尊敬します。

日本と中国の国民性の違いは大変興味深かったです。大変近い国ですが、性格や仕事の進め方など全く異なっており良いところは伸ばし、足りない部分はそれぞれ補い合っていくことのできる日中の関係はシンプルに見れば理想的なものなのだと驚きました。

チベット自治区に関することは初めて知ることだらけで大変新鮮でした。私の想像する「中国」とは異なり、広い国土だからこそだなと感じました。

「世界は広い、外に出て楽しい冒険をしよう」という最後のメッセージは、なんとも木村先生らしく、海外へ行くことに大きな不安を抱え考え込んでしまう私にとっては心が軽くなるような、救われるようなメッセージに感じました。

素敵なお講演ありがとうございました。

#### NO. 32

日本人と中国人が組めばうまく行くという内容に非常に興味をもった。性格の違いをみると、真反対にも見える。しかし、長所を伸ばし、短所を補うという面ではベストタッグであることがわかり、これは日本人と中国人だけでなく、ビジネスにおいて、いろいろな人材が必要だということを改めて感じた。

また、前回の読書課題タニン・チャノワラン氏からも学んだように、色々なことに「興味を持つ」ことが最も重要であると気付かされた。そこから、交流関係が広がったり、自分のしたいことや目標が見つかるのだと木村さんから学んだ。私も「何でもみてやろう」を大事に過ごしたい。また、1990年から2018年にかけて、日中貿易が急激に伸びている。新型コロナが蔓延した最近の貿易事情についても、深く学びたいと感じた。

#### NO. 33

日本人と中国人が組めばうまく行くという内容に非常に興味をもった。性格の違いをみると、真反対にも見える。しかし、長所を伸ばし、短所を補うという面ではベストタッグであることがわかり、これは日本人と中国人だけでなく、ビジネスにおいて、いろいろな人材が必要だということを改めて感じた。

また、前回の読書課題タニン・チャノワラン氏からも学んだように、色々なことに「興味を持つ」ことが最も重要であると気付かされた。そこから、交流関係が広がったり、自分のしたいことや目標が見つかるのだと木村さんから学んだ。私も「何でもみてやろう」を大事に過ごしたい。また、1990年から2018年にかけて、日中貿易が急激に伸びている。新型コロナが蔓延した最近の貿易事情についても、深く学びたいと感じた。

#### NO. 34

私は講義を受けて、中国の国民性と日本の国民性の大きな違いに驚いた。中国人はどちらかといえばアメリカ寄りの国民性で、いろいろな面で積極的である。日本と大きく違う点はそこだと私は感じた。個人主義である中国人は、物事を決める際のリーダーは自分がやると所望したり、ハングリー精神が身につけていたりする。組織はトップダウンでメンツ重視なため、自分が上に行こうとする気持ちが中国国内の社会の発展をさらに加速させているのではないだろうか。またメディアがあまり信用できない中国では、個々で口コミを見たりネットを活用したりなど自ら情報を取り入れようとしているのに対し、日本人はメディアやTVの影響を受けやすく流されやすい。自分で行動し正しい情報を取り入れていることが中国が日本よりも先進しているひとつの要因ではないかと私は考えた。

私は海外とのつながりをもつ職業に興味がある。商社で働くと海外に出張に行くことや貿易、駐在などで海外と関わるチャンスがあるため、自分にとってプラスになるのではない

かと講義を受けて感じた。

#### NO. 35

私は講義を受けて、中国の国民性と日本の国民性の大きな違いに驚いた。中国人はどちらかといえばアメリカ寄りの国民性で、いろいろな面で積極的である。日本と大きく違う点はそこだと私は感じた。個人主義である中国人は、物事を決める際のリーダーは自分がやると所望したり、ハングリー精神が身についていたりする。組織はトップダウンでメンツ重視なため、自分が上に行こうとする気持ちが中国国内の社会の発展をさらに加速させているのではないだろうか。またメディアがあまり信用できない中国では、個々で口コミを見たりネットを活用したりなど自ら情報を取り入れようとしているのに対し、日本人はメディアや TV の影響を受けやすく流されやすい。自分で行動し正しい情報を取り入れていることが中国が日本よりも先進しているひとつの要因ではないかと私は考えた。

私は海外とのつながりをもつ職業に興味がある。商社で働くとなら海外に出張に行くことや貿易、駐在などで海外と関わるチャンスがあるため、自分にとってプラスになるのではないかと講義を受けて感じた。

#### NO. 36

私は、木村さんの講演で特に面白かった話が2つある。

1つ目は、旅の話である。日本の中だけで生活していると、日本の風習や価値観にとらわれがちだ。しかし、海外に行くことで、新しいもの、風習や価値観に触れる。そして、そこで学び得たこと、新しい価値観は自分の財産になる。また、伊藤博文や福沢諭吉のように日本に貢献できるような偉業を果たせるかもしれないと思うと、海外に行くことは夢があると思った。

2つ目は、日本人と中国人の性格の違いの話である。日本人と中国人の性格は全く正反対で、特に、日本人は何か新しいことを始める時に「準備万端、予防処置」を念入りにするのに対して、中国人は「問題発生後に対処」するという違いが面白かった。私は、中国人の問題発生後に対処するやり方がいいと思う。なぜなら、日本は失敗を恐れすぎて、準備の期間が長すぎるので何か新しいことを始めようとすると何年もかかってしまうからだ。一方で、中国はトライ&エラーを繰り返すので、さらにイイモノを直ぐにつくることが出来てしまう。それは中国の AI 技術やインターネット、デジタルビジネスがトップを争うまでに急成長したことを見ればわかる。まさに失敗は成功のもとである。また、中国は失敗した後の対処が早いという点は、どの国よりも早くコロナウイルスを抑えることに繋がったと思う。

私は、商社という言葉は知っていたが、仕事内容までは詳しく知らなかった。今回の木村

さんの講演を聞いて、海外へ行って仕事が出来たり、部署移動などもあり自分の可能性を見出せたりできるので、商社で働いてみたいと思った。

#### NO. 37

私は、木村さんの講演で特に面白かった話が2つある。

1つ目は、旅の話である。日本の中だけで生活していると、日本の風習や価値観にとらわれがちだ。しかし、海外に行くことで、新しいもの、風習や価値観に触れる。そして、そこで学び得たこと、新しい価値観は自分の財産になる。また、伊藤博文や福沢諭吉のように日本に貢献できるような偉業を果たせるかもしれないと思うと、海外に行くことは夢があると思った。

2つ目は、日本人と中国人の性格の違いの話である。日本人と中国人の性格は全く正反対で、特に、日本人は何か新しいことを始める時に「準備万端、予防処置」を念入りにするのに対して、中国人は「問題発生後に対処」するという違いが面白かった。私は、中国人の問題発生後に対処するやり方の方がいいと思う。なぜなら、日本は失敗を恐れすぎて、準備の期間が長すぎるので何か新しいことを始めようとすると何年もかかってしまうからだ。一方で、中国はトライ&エラーを繰り返すので、さらにイイモノを直ぐにつくることが出来てしまう。それは中国のAI技術やインターネット、デジタルビジネスがトップを争うまでに急成長したことを見ればわかる。まさに失敗は成功のもとである。また、中国は失敗した後の対処が早いという点は、どの国よりも早くコロナウイルスを抑えることに繋がったと思う。

私は、商社という言葉は知っていたが、仕事内容までは詳しく知らなかった。今回の木村さんの講演を聞いて、海外へ行って仕事が出来たり、部署移動などもあり自分の可能性を見出せたりできるので、商社で働いてみたいと思った。

#### NO. 38

今回の、木村先生の講義を聞いて、世界で活躍する方というのは、みな同じことを言うのだなと思いました。一年生のときも、海外で活躍する方の講義を聞く機会があったのですが、どの方も「たくさん本を読みなさい」「若いうちに海外に行きなさい」と仰っていて、木村さんもそうだったので、やはりまだ時間のある学生のうちにたくさん読書をして表現力などを身に付けて豊かな人間になり、海外に行って様々な人とふれあい、社会に出たときの準備をしたいと思いました。海外に行って現地の人とふれあうというのは、コロナでまだできそうにないですが、機会があれば大学の留学生ともコミュニケーションをとり、その人の出身国について話すなど、制限がある中でもできることをやってみようと思いました。また、大学で様々な人の話を聞く機会がよくあり、自分の興味のあることについての話もよく聞



きますが、次の授業の準備や、質問しに行くのがなんとなくはかしくなったりと、実際に自分から話を聞きに行くことはあまりなかったが、それは、せつかく大学に来ているのにもつたないことなので、やはり、積極的に行動することを心がけていきたいと思いました。

就職を考える際に、商社は特に考えてはいませんでしたが、木村先生の話聞き、商社も視野に入れて考えてみようとも思いました。

#### NO. 39

まず冒頭からすごいと思わせられたのは鉄道乗り放題ユーレールパスを利用しお金のない中1年間留学を決意し実行しており、小田実さんの「何でも見てやろう」をきっかけに行動できる行動力・実行力がすごいと感じました。自分自身も留学を考えているがもちろんコロナかというイレギュラーなタイミングとはいえ色々考えすぎるくらい考え立ち止まっているのでそういう部分を参考にし、生きていきたいと感じました。

海外で自分の好きなものを見つけることに関しては自分の中でできていると思っていて、自分の場合韓国なのだが好きなものは韓国文化・南北統一・財閥がどのようにして韓国を動かしているのかそのような問題に興味を持っていて実際に韓国に1年間留学して現地の方達に聞いてみたりできる限りのある種の調査を行ってみたいと考えています。コロナ禍で色々難しい時代ではあるが挑戦をしてみようと思います。

#### NO. 40

今回の講演で、国際人として活躍するための国際理解や国際感覚を養うことはもちろんのこと、人として成長するために必要なことを、経験を基に人生の先輩から学ぶことが出来たと思う。私にとって木村さんの「何でも見てやろう」や「自分の好きな物をきっかけに海外へ行くこと」についての話は、自分の海外へ行くことのハードルを下げてもらったかのように感じました。商社で中国人と働いた経験を踏まえて、中国人の付き合い方や中国人の全般的な性格を知ることが出来た。海外経験が無い私にとっては非常に有益な話であった。この話から国際的に活躍するためにはまず、相手の習慣、生活環境、性格の理解が不可欠であるのだと思った。私は木村さんが提示した消極的でグループ主義であることに加え、現在の日本での生活の変化を嫌うような性格であるのかもしれない。しかし、これからはまず行動にうつしてみることから一歩ずつ前進していき楽しく世界を知ってみたいと思った。(

#### NO. 41

今回の木村先生の授業で、私は「何でも見てやろう」という言葉が心に残りました。「百聞は一見にしかず」という言葉がありますが、実際に生で実物を見ることが大事なのだと思

て気付かされました。私は音楽や演劇が好きなので、それらを海外に行って鑑賞してみたいと思いました。人を成長させる3つのこととして本、旅、友人が挙げられていましたが、今までスマートフォンに頼ってばかりの生活をしてきたので、スマホから離れた生活をしてみることに挑戦してみたいと思いました。

中国人は積極的で自分の主張がはっきりとしていることが性格の特徴として挙げられていましたが、日本人は反対に消極的で自分の主張をあまりせず、周りに合わせるような性格をしています。このように正反対な性格をしている日本人と中国人はお互いに短所を補い、長所を伸ばすことができるため、成功を収めることができる組み合わせなのだと思いました。

## NO. 42

今回の講演で海外での経験や人との付き合い方がどれほど大切なのかわかった。海外での経験は、語学を基本として日本人以外の考え方や捉え方を知ること、自分の幅が広がることがよくわかった。人との付き合いは、ゴルフやお酒の席など自分たちのことをどれだけ気に入ってくれるかの勝負のところで、こういうところでも気を使わなければいけないなんて社会人って大変なんだなと思った。